

地元産業界等との連携の実施状況（令和5年度）

◎地元産業界等との地域の課題解決に向けた連携事業の実施状況

◆地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）を通じた地域課題解決の取り組み

事業名称：「豊かな心と専門的課題解決力を持つおおいた地域創生人材の育成」

本学では、平成26年度に文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択され、本学の建学の精神である「産学一致」に「人間力の育成」「社会・地域貢献」を加えた教育理念に基づき、それまで実績を上げてきた産業界・地域社会を意識した実践活動を主体とした全学での人間力教育をベースとして、地域課題である少子高齢社会を豊かに乗り切るために必要な専門的課題解決力を兼ね備える「地域創生人材」育成へ発展させ、これを地域との実践的協働活動により実現する取り組みを実施している。本事業は補助事業終了後も連携先との合意に基づき引き続き実施している。また、令和5年度からは包括連携協定を締結する佐伯市、中津市にも参画いただき取り組を拡大している。

i. 連携している地元産業界等の組織名称：

- ・大分県（平成26年3月に「地（知）の拠点整備事業」副申書により連携）
- ・大分市（平成19年8月に包括連携協定締結）
- ・豊後大野市（平成26年2月に包括連携協定締結）
- ・佐伯市（平成20年3月に包括連携協定締結）
- ・中津市（令和5年4月に包括連携協定締結）

ii. 当該連携事業における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標：

大分県の発展・飛躍の方向性の一つとして「人口減少社会を見据えた特徴ある地域づくり」を定める必要性が挙げられている。本事業では大分県全域及び県内の少子高齢化が深刻である地域（大分市佐賀関地区、豊後大野市）を対象に、これからの少子高齢社会を豊かに乗り切るために必要な地域課題の解決を対象とする。連携先と合意した本学が解決を図ろうとする地域の課題は以下の7つである。

- （1）小規模・高齢化が深刻な集落におけるコミュニティの維持・活性
- （2）人口減少社会を支えるための先進的な“ものづくり”
- （3）自然の積極的な活用による保全と地域活性
- （4）地域商店・商店街の活性による地域振興
- （5）健康増進・生活支援によるコミュニティの維持
- （6）NPO法人の活動・経営支援
- （7）地域ブランドの発掘による交流人口の増加・産業の活性（6次化）

<課題解決に向けて設定した目標項目> ※各年度の達成状況は別紙参照

【教育】地域志向科目数、地域志向カリキュラムの再編成、副専攻制度、地域志向科目を履修した学生の満足度、ジェネリックスキルの育成、県内就職率

【研究】地域との共同研究を行う教員数

【社会貢献】地域向けボランティアの活動数、地域向け公開講座数、県民の本学に対する本事業分野の地域貢献度の評価

iii. ii の課題の解決に向けて実施する取組みの内容：

県内の少子高齢化が深刻である地域での「体験交流活動」「課題解決に必要な知識の修得」「ステークホルダーとの協働による課題解決型学修」を可能とする教育カリキュラム体系への全学的な再編と社会貢献活動との有機的な接続、それに基づく研究プロジェクト活動の推進を実現する地（知）の拠点改革を実現し、地域力の向上につなげる事業を実施している。

令和5年度は、iiで示した7つの課題及びその基盤となる活動として、新型コロナウイルス感染症に対する方針（5類移行した5月以降は解除）を踏まえながら、50程度のプロジェクト活動を全学、各地域で展開、実施している。

本活動の取り組み方針については、令和元年度以降の取り組み方針、令和5年度の取り組み方針としてそれぞれ別紙の通り連携先と合意しており、地域へのフィードバック体制、事業の評価体制、継続的な協議の実施のサイクルを構造化している。

なお、本年度の5自治体及び地元民間オブザーバーとの合同会議である連携推進会議は令和5年7月5日に開催した。地域へ成果を発表・還元する地域報告会は、各活動単位で状況に応じて実施した。本年度の取組については、令和6年3月28日に5自治体と民間委員を含む外部評価委員会にて事業評価を受け、次年度の方針に反映した。

◎地元産業界等と連携した実践的PBLを含む授業科目等の開講の実施状況

◆科目名：「プロジェクト3（環境・地域創造演習）」（3年・通年・2単位）

i. 連携している地元産業界等の組織名称：

中津市（令和5年4月に包括連携協定締結）

ii. 当該授業等を実施する学部・学科： 工学部 建築学科

iii. 当該授業等を開講する目的：

中津市三光地区にある八面山は中津市民の心のよりどころとしての存在であると同時に、自然散策などのレクリエーションの場所として活用されている。麓には市の施設である八面山荘もあるが、スポーツ合宿など利用が限定的である。

そこで、本授業では八面山の観光振興を目的に、宿泊・研修施設である「八面山荘」の魅力向上及び隣接する土地・施設（四季の丘公園等）を活用する提案、その実践を課題解決型授業として実施し、八面山来訪客の増加及び観光消費額の増額につなげることとした。

iv. 当該授業等の具体的な内容

本学建築学科学生を中心に、令和4年度の課題解決授業において、「モノづくり」「飲食メニュー開発」「ツアー開発」の各提案を行い、中津市関係者（市役所や地域住民等）から高い評価を得た。

本年度はその内容を具現化、モニターツアーを通じて効果を検証することを目的として、令和5年5月より学生8名が2チームに分かれてモノづくり及び飲食メニュー開発に取り組み、モニターツアー等を通じて成果物や当地の魅力発信を行った。

モノづくりにおいては、自由に組み合わせることで机や椅子になり屋内外で利用できる「つみきばこ」（大20個、小10個）の製作、体験ワークショップである「しめ縄飾りづくり体験」メニューを開発した。飲食メニュー開発では四季の丘公園の小屋を活用した「小屋カフェ」で提供できる地元の産品を使用したスイーツ（スコーン等）や飲み物等を開発、レシピとしてまとめた。また四季の丘公園を活用した食材探しを組み込んだ「ピザづくり体験」メニューを開発した。これらを令和5年11月18日～19日に開催したモニターツアーでお披露目し、好評を得るとともに、今後の社会実装に向けた課題を調査した。

これらの成果発表会を12月22日に八面山荘で行い、成果を地域に還元した。

以上